

マンツーマン推進について

- 1 マンツーマン推進に関する資料について
 - ・資料は JBA ホームページにあります。資料のある場所を探せない方は、後日、部会掲示板に資料を載せます。ご覧ください。
 - 2 マンツーマン推進の効果 ※ JBA ホームページより
 - ・1対1でバスケットボールを楽しむ
 - ・個人のスキルアップを図る
 - ・状況判断力、理解力を高める
 - ・想像力を養う
 - ↓
 - ・強力な1対1の突破力、得点力のある選手が育つ
 - ・ディフェンスで相手を止められる選手が育つ
 - ・高い運動能力を持ち、オールラウンドに活躍できる選手が育つ
 - ・マンツーマンディフェンスの強化により、将来的なゾーンディフェンスの活用を含めた総合的なディフェンス力の強化が実現する
 - ↓
 - ・バスケットボールを楽しむ選手が増える
 - ・世界で活躍できる選手が増える
 - ・強い日本代表チームができる
 - 3 マンツーマンコミュニケーションの実践
 - ・「マンツーマンコミュニケーション担当者様」より
 - ・「マンツーマンコミュニケーション表／報告書」記入例は裏面参照
 - ・課題
- ① JBA ホームページにあるマンツーマン推進に関する資料をよく読んで、普段の指導、試合でのコミュニケーションをお願いします。
- ② 「マンツーマンコミュニケーション表／報告書」によく記載される内容
- ※ 「市 U-12 部会各位」等より

マンツーマンコミッションナーチェック表／報告書

2018/8/21 改訂版

1. 担当者

都道府県	コミッションナー氏名	コミッションナー氏名
青森	八戸太郎	八戸次郎

2. 大会情報

大会名	八戸U-12交歓		試合区分	U12・U15 (男・女)
試合日	4年4月28日	会場名	Y.S	
チーム名	淡	八戸ホワイト	コーチ氏名	
コーチ氏名	濃	八戸ブライツ	コーチ氏名	

3. チェック項目 (下記のチェック欄に「○」または「×」を記入)

項目	内容
1	マンツーマンディフェンスの意識がある。(声のサイン・手のサイン・アイコンタクト・ポジション等)
2	ボールや相手と共に動いている。
3	少なくとも、マッチアップエリア付近からはマンツーマンディフェンスを始めている。
4	マッチアップエリア内のオンボールには1.5m以内を目安としてマッチアップしている。
5	オンボールのトラップはよいが、トラップが終息したら直ちにマッチアップを開始している。
6	ヘルプサイドのディフェンスがミドルラインをまたぎ越していない。
7	オフボールの選手に対して、数的優位な守り方をしていない。(U15で予測に基づくプレーを除く)
8	オフボールのオフenseのポジションチェンジに対し、スイッチしていない。
9	オフボールのディフェンスでは、マッチアップするプレイヤーを意識して移動している。

【チェック欄】

項目	1P/1Q		2P/2Q		3P/3Q		4P/4Q		延長1		延長2	
	淡	濃	淡	濃	淡	濃	淡	濃	淡	濃	淡	濃
1	15	0	9	9	15	15						
2	9	14			9							
3	0	0										
4	11	0										
5	9	9										
6	0	0										
7	0	0										
8	9	9										
9	0	0										

4. 違反内容 (赤旗の上った事象)

チーム	P/Q	時間	警告内容	備考
淡	4	4:51	項目1.マンツーマンディフェンスの意識が見られない	

5. 特記事項 (故意的な違反行為等特に報告が必要な事項があれば記入してください。)

--

1. 担当者

都道府県	コミッションナー氏名
	市ノ口支部 谷位 コミッションナー氏名

2. 大会情報

大会名	試合区分	U12・U15 (男・女)
試合日	年月日	会場名
チーム名	淡	コーチ氏名
コーチ氏名	濃	コーチ氏名

3. チェック項目 (下記のチェック欄に「○」または「×」を記入)

項目	内容
1	マンツーマンディフェンスの意識がある。(声のサイン・手のサイン・アイコンタクト・ポジション等)
2	ボールや相手と共に動いている。
3	少なくとも、マッチアップエリア付近からはマンツーマンディフェンスを始めている。
4	マッチアップエリア内のオンボールには 1.5m 以内を目安としてマッチアップしている。
5	オンボールのトラップはよいが、トラップが終息したら直ちにマッチアップを開始している。
6	ヘルプサイドのディフェンスがミドルラインをまたぎ越していない。
7	オフボールの選手に対して、数的優位な守り方をしていない。(U15 で予測に基づくプレーを除く)
8	オフボールのオフエンスのポジションチェンジに対し、スイッチしていない。
9	オフボールのディフェンスでは、マッチアップするプレーヤーを意識して移動している。

【チェック欄】

項目	延長1		4Q		延長2	
	濃	淡	濃	淡	濃	淡
1	3	3	1	2		
2	9	2				
3	0	0				
4	9	4				
5	0	1				
6	9	5				
7	1	0				
8	0	0				
9	7	2				

4. 違反内容 (赤旗の上があった事象)

チーム	Q	残り時間	警告内容	備考
			市ノ口	
	項目	1, 4回	項目 1, 2回	
		6, 7回	4, 2回	
		4回各1回	5, 1回	

5. 特記事項 (故意的な違反行為等特に報告が必要な事項があれば記入してください。)

--

コミッショナー担当者様へ

以下の流れで、お願いいたします。

<試合前>

- ① 試合開始10分前までに、「マンツーマンコミッショナーチェック表／報告書」の「1. 担当者」と「2. 大会情報」の大会名、試合区分、試合日、会場名を記入。
- ② 試合開始5分前までに、前の試合の「コミッショナーチェック表／報告書」を確認し、チェックされていた項目がないか確認しておく。同時に、審判やSTとコミュニケーションをとる。
- ③ 試合開始5分前に、ST席前に両チームのコーチを集め、「マンツーマンコミッショナーチェック表／報告書」にサイン(チーム名とコーチ氏名)をしてもらう。
- ④ 第1試合であれば、コーチライセンスの確認も行う。
- ⑤ フラッグカー(旗を振る人。)と記録者に分ける。
- ⑥ 赤旗対応の時の役割分担をする。(例:「ボールのコントロールが変わったときの時間」をフラッグカーが確認。ST席のタイマーをとめ、ブザーを鳴らすのが記録者。)

<試合中>

- ① フラッグカーと記録係に分かれ、イリヤーガルな現象について確認・相談をする。黄旗をあげる必要が出たら、音が出るように黄旗を振り、その選手のベンチを指す。
- ② 黄旗が振られたら、記録係は「マンツーマンコミッショナーチェック表／報告書」のチェック項目に、イリヤーガルなディフェンスをした選手の背番号を記入。
- ③ 黄旗が2～3回あがった後、その次の黄旗(3～4回目)をあげた時に、はじめは黄旗を振り、途中で赤旗に持ちかえて振り、その選手のベンチを指す。「マンツーマンコミッショナーチェック表／報告書」の「4. 違反内容」にチーム(淡か濃)、Q(クオーター)、残り時間、警告内容(チェック欄)の項目と必要なら記述)を記入。

【赤旗対応の実際】

- ・赤旗対応になりそうなときに、事前に審判、STに伝える。
- ・フラッグカー(旗を振る人)は、赤旗をはつきりとあげる。コミッショナーは「ボールのコントロールが変わったときの時間」を確認しておく。
- ・ボールのコントロールが変わったときに、コミッショナーがタイマーをとめ(またはSTに伝えてタイマーをとめ)、ブザーを鳴らす。遅れたとしてもタイマーをとめ、ブザーを鳴らす。コミッショナーが確認した「ボールコントロールが変わったとき」の時間をクルーチーフに伝え、処置する。

- ④ 黄旗の1回目「マンツーマンコミッショナーチェック表／報告書」に記載されているチェック項目の1, 2回目がチェック項目の2, 3回目がチェック項目の3であり、通算3～4回目の黄旗は、黄旗をあげて振り、途中から赤旗に代えて振り、その選手のベンチを指す。
 - ⑤ 赤旗があがったチームに対して、再度イリヤーガルな現象が確認された場合、もう一度黄旗からあげる。次は2～3回目の黄旗をあげて振ってから赤旗に持ちかえて振り、その選手のベンチを指す。2回目以降の赤旗は、マンツーマンペナルティとなる。
- ※基準規則では、黄旗5秒で赤旗となっているが、目安として考える。④、⑤の処置については基準規則に明示されていないので、県のコミッショナー担当者からアドバイスや指導があった場合、各チームに再度連絡する。
- ⑥ 黄旗、赤旗ともに、それぞれあがったチームで通算して数える。

<試合後>

- ① 「マンツーマンコミッショナーチェック表／報告書」をバインダーの一番下にはさみ、次のコミッショナーが見られるようにする。